

第67回車座集会意見交換内容（宮前区）

- 1 開催日時 令和6年3月24日（日） 午前10時00分から午前11時55分まで
- 2 場 所 宮前平こども文化センター
- 3 参加者等 参加者12名、傍聴者約11名 合計23名

<開会>

司会：それでは、定刻となりましたので、ただいまから第67回車座集会を始めます。

私は本日の司会を務めます、宮前区役所企画課長の小出と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日の開催趣旨について、ご説明いたします。モニターか、お手元のスライド資料の3ページをご覧ください。

宮前区は緑豊かな公園が多く、公園の落ち葉の量も多い傾向にあります。集めた落ち葉については、これまで普通ごみとして捨てられておりました。他都市では、落ち葉を堆肥として活用している事例もあり、区民の方からも、落ち葉を活用したいというお話も出ておりました。こうしたことから、宮前区においても何か取り組めることがあるのではないかと考え、令和5年度の宮前区地域デザイン会議において、落ち葉の活用について、関係者の皆様と議論し、実際に落ち葉を活用したイベントを、昨年11月にここのすぐ隣の宮崎第4公園で実施いたしました。

本日は、こうした落ち葉の取組を紹介させていただき、ご参加いただいている皆様からご意見を伺いながら、落ち葉のさらなる活用について、福田市長と参加者の皆様に議論し、この取組を区内に広げていくきっかけをつくれたらと考えております。

それでは、本日ご参加いただいている皆様をご紹介させていただきます。お名前をお呼びいたしますので、挙手をしてくださいませよう、お願いいたします。

有馬在住で、落ち葉の堆肥化などの活動をされている大島さん。

南野川特別緑地保全地区管理運営協議会会長の伊藤さん。

有馬在住で、落ち葉堆肥に関心がある高原さん。

宮前ガーデニング倶楽部で活動している河井さん。

同じく山崎さん。

宮前まち倶楽部代表の辻さん。

花の台町内会副会長で、宮崎第4公園公園緑地愛護会で活動されている林さん。

有馬9丁目町会さくら公園愛護会及びしいの木公園愛護会で活動されている寺澤さん。

水沢特別緑地保全地区で、里山保全活動を川崎市と共同で実施いただいているまいばすけっと株式会社の庄田さん。

なお、宮前平こども文化センター館長の鈴木さんと、昨年11月に実施した落ち葉活用イベントにご参加いただいた小学生のお二人についても、本日ご参加いただく予定となっておりますが、実は、今こども文化センター内で同時に行っている、11月のイベントで作った落ち葉の堆肥を活用した花植えイベントに参加しているため、イベント終了後に、こちらに合流していただく予定となっておりますので、いらっしやいましたら、改めてご紹介させていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、行政からの出席者を紹介いたします。福田紀彦川崎市長でございます。

市長：はい、どうぞよろしくお願いいたします。

司会：南昭子宮前区長でございます。

区長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：それでは、開会にあたりまして、福田市長からご挨拶を申し上げます。福田市長、よろしくお願いいたします。

<市長挨拶>

市長：改めまして、おはようございます。この距離ですから、座ったままでいいですね。

第67回目となりました車座集會に、日曜日にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。車座集會といっても今日はすごくこじんまりまとまっているので、膝詰め集會という感じですが、本当にこのサイズ感でお話できるのはすごく貴重な機会だと思います。今日は落ち葉を活用したテーマということで、最初宮前区から今回のテーマは落ち葉と聞いて、「え、落ち葉？」と思ったんですけど、実はすごくタイミングよく、今日の日本経済新聞に3面にわたって「土と落ち葉と脱炭素」という特集が組まれていて、何とタイムリーなという感じです。大島さんの活動されているようなことが、全国でも少しずつ行われてきているんだということにびっくりもしましたし、気づかされることがあるなと思って、今日はものすごく個人的にも楽しみにしております。

今日のテーマは、地域デザイン會議で議論を1回したということですので、この車座集會の場があって、その先につながるようなそんな議論ができればいいなと思っております。

午前中いっぱいですがけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

司会：ありがとうございました。それでは早速議論に入りたいと思います。

初めに、宮前区の公園の現状等について、企画課の小西からご説明いたします。よろしくお願いいたします。

小西担当係長：企画課の小西と申します。

それではスライドの4ページか、モニターを見ていただければと思いますけれども、私から宮前区内の公園の現状について、簡単にご説明させていただきます。

宮前区内には街区公園が201か所、近隣公園が5か所、風致公園が1か所ございます。（資料の左下に書いてありますが、街区公園というのは、半径250メートル程度の街区に居住する人々が利用する0.25ヘクタールを標準とする公園という、比較的小さな公園で、近隣公園というのは、半径500メートル程度の近隣、一定程度広い範囲で利用いただく公園で、宮前区は5公園ございます。例えば、有馬ふるさと公園とか、鷺沼公園とか、宮崎第4公園等になります。風致公園は、東高根森林公園がございます。

資料を見ていただくと、5,000平米以上の公園については名称を入れていますけれども、田園都市線沿いに割と大きな公園が集中しているという状況です。

続きまして、公園の管理をどうしているのかというところですが、公園緑地の運営の維持管理については、各区の道路公園センターが行っていますが、公園や緑道の除草、清掃、美化活動、あるいは公園施設の保全等については、主に町内会や自治会等の団体で組織する公園緑地愛護会、そして公園管理運営協議会というところに報奨金を出して、ボランティア活動によって維持管理されています。

公園緑地愛護会は、宮前区には74団体ありまして、主に、先ほど言ったような公園の除草とか、清掃など、日常的な活動していただいているところでございます。では、公園管理運営協議会と何が違うのかというところかというと、公園管理運営協議会は宮前区内に88団体ございますけれども、先ほど言った愛護会が行っている日常的な維持管理に加えて、樹木の下枝落としや、低木の刈り込み、軽易な遊具の補修、あるいは町内会が行うゲートボール大会の利用の調整も行っており、公園が管理されている

というところでございます。

次のスライド6になりますが、他都市の状況を簡単にインプットさせていただきますと、例えば、京都市のスポーツ協会では、運動公園に大量の落ち葉が落ちているということで、排出ごみの削減に向けた落ち葉の有効活用という観点から、公園の落ち葉の堆肥化をやっておりまして、実際その完成した堆肥は、スポーツフェスタなどで、市民に配布して、ガーデニングに活用いただいているようです。そういった取組をしている自治体もあります。

私からは、以上となります。

司会：ありがとうございました。

続きまして、実際に公園清掃を行っていただいている宮崎第4公園公園緑地愛護会の林さんに、落ち葉等に関する公園管理の現状と課題についてご説明していただきます。林さん、よろしくお願いいたします。

林靖さん：初めまして、花の台町内会で副会長やっております林と申します。

今、ご紹介にあずかりましたように、こちら、広大な宮崎第4公園の清掃管理をやらせていただいております。もう8年ぐらいになりますけど、ここに書いてありますように、年に3回、6月、9月、12月に、町内会の掲示板、回覧等で近隣の皆様に公園清掃の依頼をしまして、当日朝9時から11時ぐらいまで2時間ぐらいですけど、やっております。

最近、私も学校協議会とかに出ながら、9月〇〇日は、川崎市全体で公園清掃、一斉清掃日だよというような啓蒙活動を盛んにやることによって、大分増えてきたんですけど、なかなか今の小中学生は、日曜日は塾とか、試合とかでお忙しくて、少ないときは本当に5、6人、私も今年で62歳になったんですけど、私が大体最年少みたいな感じです。とにかくここは自然がいっぱいで、落ち葉がたくさんあるので、12月というのはものすごい落ち葉の量になりまして、5、6人ですと、もう時間切れを待つしかないというような感じなんです。一番多いときで、大きな70リットルのビニール袋、100袋を超えるぐらいの量の落ち葉を収集して、環境局に持って行ってもらっているというような現状ではあるんですが、実際には時間切れで、本当に拾えば、ここ（資料）にも書いてありますけど、200袋、300袋ぐらいの量があって、とてもじゃないけど、全部拾い切るのは難しいので、いつも清掃のときは、全部は無理ですから休みながらやってくださいということでやっているわけです。皆様のお知恵を拝借して、少しでもそういった清掃する手間、また、それを収集する環境局の方も、9月なんかは当日収集してくださるので非常に助かっているんですけど、大変な労力がかかっていると思うので、ぜひ落ち葉の有効活用をしていければと思っております。

いずれにしろ、宮崎第4公園というのは、本当に宮前区が誇る自然いっぱいの自然公園ということで、1周500メートルなので、私も多少ジョギングをしたりするんですけど、夏場でも、全面日陰のコースが取れて、コインパーキングも目の前にあるので、結構地区外の方が車で来られて、真夏で35度を超えるような暑さの中でも、子どもを日陰の中で自由に遊ばせることができる、私としても、子どもの頃から自慢の公園ですので、ぜひこういった形を守りながら、また知恵を出し合って、維持管理をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

司会：ありがとうございました。

続きまして、落ち葉の活用事例としまして、有馬で公園の落ち葉を堆肥にし、完成した堆肥をガーデニングに活用している大島さんの事例をご紹介します。それでは、大島さん、発表をお願いいたします。

大島さん：こんにちは、大島と申します。よろしくお願いいたします。

ちょうど1年ぐらい前でしょうか、農フォーラムというのに出席しまして、そのときに落ち葉をどうにかできないかと思って、ちょっとお声がけをしたら、それからどんどん話が進みまして、こういう発表の場を与えられたこと、本当に感謝しております。よろしくお願いいたします。

私は47年ほど前に有馬に引っ越してきました、主人と自転車屋を営んでおりました。若い頃は、しょっちゅう植木を枯らしたりしていたんですけれども、だんだん子育ても一段落して、孫もできて、お花に興味を持ち始めました。

今、私が活動しているのは、ローズウォークと言いまして、有馬川の暗渠から出てきたちょうど起点になるんでしょうかね、そこから40メートルほどのところに花壇作りを始めまして、今度はやまぼうし公園で手伝ってほしいということで、そしてさくら公園にもお邪魔したりなんかして、ふるさと公園の篠竹を拝借してきました、いろいろ支柱なんかを作ったり。それから今年から宮前郵便局で、町会の皆さん、いろんな方と一緒に落ち葉を使って花壇作りをしていこうとしております。

このスライドが最初に作ったローズウォークと言いまして、有馬川沿いの花壇です。元々はすごく荒れていまして、近くにごみ捨て場があるんですよね。ごみが飛んでいたり、雑草だらけだったり、そこで仲間と3人で夏の暑いときに、必死になって耕して、今のようなガーデンになりました。緑がとても豊かで、今は春にはなりましたが、ちょこちょこお花が咲いております。

次（のスライド）、お願いします。有馬町会でも、落ち葉をごみとして出しているんですね。街路樹清掃などで結構ごみが出ます。2,000袋近くのごみが毎年出ております。それを何か活用できないかなと思ひまして、寺澤さんが管理していらっしゃる有馬さくら公園でコンポストを作らせていただこうかなと思ひまして、ふるさと公園の篠竹を使って、かごのようにして編んで、ほぼ無料で作りました。

それで、皆さん活動していらっしゃるの、落ち葉の底に、植物の残渣などを入れていただいて、かき混ぜていただきました。それが発酵して、中の方はぽかぽか温かくなり、あれはカナブンですね、コガネムシだとちょっとよくないんですけど、カナブンの幼虫が下のほうに、何かいろんな幼虫が生まれて、また落ち葉を食べています。

次（のスライド）、お願いします。町会の方たちが有馬梅林公園で清掃活動をしています。愛護会なんですけど、そこの落ち葉も使いたい。それで、私は有馬8丁目に住んでいるんですが、8丁目の街路樹でためた落ち葉をそこにまとめたいなと思ひまして、また例のごとく、伊藤さんのお宅から頂いてきた竹を編んで作りました。竹で作ると、自然素材なので景観も損なわないんですね。竹は割と丈夫なので、意外と長もちしてくれると思ひます。町会の方々も協力的にやっています。

次（のスライド）、お願いします。今度は、森カフェというのをふるさと公園でやってみたい、何か皆さんが集まる場所をつくりたいなと思ひまして。これは去年の写真なんですけれども、実験的にやったときの写真です。

今月17日には、森カフェを勝手にやらせていただきました。火が使えないので、カセットコンロを持っていきまして、ドリップでコーヒーを入れて、お茶菓子を持って行って、作業をちょっとして、ほとんどお茶とおしゃべりで終わりましたが、皆さん楽しんでいただいて、Facebookで「みんなの愛護会」というページがあるんですが、そこの方も取材に来ていただきました。これで終わりますね。どうもありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

続きまして、川崎市の特別緑地保全地区である南野川ふれあいの森において、緑地の保全活動や市民への憩いの場の提供をしておられます、南野川特別緑地保全地区管理運営協議会、通称、野川はあもの会長、伊藤さんに、南野川ふれあいの森で実施している自然を活かした遊びなどについて、紹介してい

たきます。

伊藤さん、よろしくお願いいたします。

伊藤さん：こんにちは。野川はあもの伊藤と申します。

活動しているのは、南野川ふれあいの森といいまして、宮前区でも一番端っこになると思うんですね。宮前区の南東、約1ヘクタール弱の斜面緑地なんですけれども、かつては雑木林であっただろうところが、南野川ふれあいの森ということで、市民の憩いの場として開放されていました。

先ほど公園の紹介があったんですけれども、森なので、公園の中には入っていないんですね。特別緑地保全地区ということで、緑地として、そこを保全していこうという形で、私たちが活動を始めて、今年でちょうど丸20年になります。

今日のお話は、公園の落ち葉ということなので、話がずれるかなと思うんですけど、私たちはその森で出てきたものは、その森の中で収めようということで、持ち出さない、持ち込まないということをモットーに活動してきました。

もともと雑木林だったので、広葉樹の落葉樹がほとんどで、当然、大量の落ち葉が出ます。今の時期はまだ芽吹き前なので、ほとんど見渡せるような状態の森なんですけれども。

森で、落ち葉はそんな問題にならないだろうと皆さん思うと思うんですが、私たちの活動、冬になって落ち葉が出ますと、落ち葉かきという作業をします。落ち葉掃きじゃなくて、落ち葉かきですけれども、なぜ落ち葉かきをするのかというと、大量の落ち葉が発生して地面に堆積すると、そこでいろんな種がこぼれたものが、光が届かないことによって発芽がしなくなって、植生的にもあまり楽しくない、生物多様性から言ってもあまり魅力のあるところになっていかないので、必ず冬、ある程度落ち葉が落ち切ったところで、みんなで熊手で集めて、熊手でかくことで地面に空気を送るという意味もあるんですけれども、落ち葉かきをします。すると、まあすごい量の落ち葉が集まるんですけれども、それを森の何か所かに集めます。後はどうするかというと、何もしないんですよ。

メンバーに子どももたくさんいるんですけれども、落ち葉かきの作業は子どももすごく大好きで、一生懸命やるんですが、その（落ち葉の）山ができるのが子どもはすごく待ち遠しい状態で、何も言わなくても、山ができると必ず飛び込みます。それで、落ち葉だらけになって、もうそれが大好きで、そのうち大人が手足両方を持って、わざと高いところから落とすみたいな、そういう遊びが自然発生的に起きます。

そういう形で、昔は雑木林だったので、落ち葉を集めて堆肥にして、それを畑にまくという、そういう循環がうまくできていたと思うので、私たちも何年か前は必ず落ち葉だめをちゃんと区切って、堆肥作りみたいな形で行っていたんですけど、そのできた堆肥を、じゃあ、どうするかというと、メンバーでたまに持って帰ってうちにまくとか言う人もいたんですけど、なかなか使ってくれる人もいなかったもので、今はそのまま森に放置なんです。

落ち葉を集めた状態で、高さ2メートルぐらいになるんですけど、だんだんそれがかさが減っていくわけですね。それは、子どもたちも不思議がって、この間あんな山だったのに何でなくなっちゃったの？みたいな話、疑問が当然出てきて、その中で落ち葉というのは、こうなって、こうなってねみたいな、森を歩くと、外歩くときとは違ってふかふかするよみたいな話から、その落ち葉がこの森を作っているんだよと。落ち葉が命の源になっていくんだみたいな話も、自然と落ち葉プールをしながら話が広がっていくので、その点、落ち葉をごみとは、多分子どもたちは考えていないと思うので、そういうことを体験しながら、たとえばうちの中でごみとして捨ててしまっても、落ち葉は実は土になるんだなということを理解しながら、大人になってくれるとうれしいなと思っています。

活動日は当然、森の管理作業をするんですけれども、その管理作業をする前には、必ず毎回観察の時

間を設けています。今、森の中でどんな花が咲いているのかとか、どんな鳥が来るのかとか、そういうことを見ながらやることで、森に愛着を持ってもらおうというのを始めているんですけども、その中で、毎回観察だけだと子どもも話には集中しないので、「はあもビンゴ」というのをやり始めました。

「はあもビンゴ」というのは、ネイチャーゲームのフィールドビンゴを、野川はあも版にしたものですが、9つのマスにそれぞれお題を毎回書いて、例えば白い花だとか、鳥の声を聞くだとか、そんなに難しくなく9つのテーマについて、毎回森の中でそれを探してくるという、そういうゲームをしています。そうすると、毎年同じ時期に、あそこではあの花が見られるとか、あそこに行けば、このお題に丸をつけられるというのを、だんだん大人も子どもも覚えてきて、森への理解が深まって、あまり肩肘張らずに、名前は分からないけど、この木はこういう花が咲くんだというのを覚えてくれているのかなと思います。以上です。

司会：ありがとうございます。

続きまして、初めの開催趣旨でもお伝えしました、令和5年度の宮前区地域デザイン会議で議論した内容や、そこで出たアイデアなどを踏まえて、11月に実施した落ち葉を活用したイベントの内容などについて、共有させていただきます。説明は、企画課の小西からいたします。よろしくお願いいたします。

小西担当係長：お手元の資料の21枚目のスライドか、モニターをご覧くださいと思います。

昨年の9月26日に地域デザイン会議を開催しまして、先ほども説明がありまして、落ち葉が捨てられているのを活用できないかということをテーマにさせていただきました。本日お越しいただいている方にもご参加いただきながら、公園の現状ですとか、区内の取組を踏まえながら課題を整理しつつ、堆肥の活用という観点と、遊び活用という観点に分けて、今後どのように取組を進めることができるかというのを議論させていただきました。

議論の内容としては、(2)に書いてあるとおり、公園の現状とか、活用事例、あとアイデア出しもしていただきました。そして、意見交換を踏まえて、実際にイベントを開催してみようという形でやっております。

地域デザイン会議で出たアイデアのまとめという形で報告させていただきますと、まず、堆肥の活用のほうの観点ですけども、課題として、担い手の確保はやっぱ課題だよねというお話、あるいは、堆肥化する場所の確保は検討が必要というところで、大きな公園ですと、こういった堆肥のスペースを確保できるんですけども、小さいスペースだとなかなか難しいんじゃないかとか、そういった議論がありました。

アイデアのポイントとしましては、もっと気軽に堆肥作りができるようにというお話で、決まったルールはないんだよというお話、あるいは落ち葉は毎年出てくるもので、負担なく、継続できる仕組みが大事だよねというご意見もありました。

それ以外にも、公園清掃に子どもに参加してもらって、堆肥作りや土に触れることを通じて、子どもが命の循環を感じる体験をつくる、先ほど伊藤さんからもありましたけれども、体験を通じて、楽しいと感じてもらうことが大事なのかなというご意見が、堆肥活動のアイデア出しで、出てきました。

次に、遊び活用の観点では、こちら、まとめた図になっておりますけれども、基本的にいろんなアイデアが出てきました。子どもにとっては、自然があれば学びになるということや、子どもたちに学びを考えさせる機会になるんじゃないか、ゲーム感覚で落ち葉を集めても面白いよねというお話もありました。また、親世代でも一緒に遊ぶことで、子どもと一緒に交流できる機会になるということで、落ち葉プールなどで、落ち葉に埋もれる体験を増やす、あるいは、どんぐりや葉っぱを使った工作、どんぐり

笛とかドリームキャッチャーとか、いろんな工作を絡めてやると面白いんじゃないかというようなご意見があったり、元気なシニアの力を借りて、道具から作るイベントがあってもいいよねとか、堆肥の中にいる生き物を観察する、そういったことをやってもいいよねとか、いろいろなアイデアが出ました。

それらを踏まえて、昨年の11月25日に、この裏の宮崎第4公園でイベントを実施いたしました。実際にやった内容としては、まずは、落ち葉をみんなで集めてみよう、その集めた落ち葉を落ち葉プールにしてみよう、そして、先ほど伊藤さんからもありましたフィールドビンゴで、実際に自然に触れ合う機会をつくろう、最後に、堆肥作りにチャレンジしてみよう。この4項目で進めさせていただきました。

当日は90名という多くの方にご参加いただきました。そして、遊んで学ぶことができたと考えております。最初に、落ち葉拾いは、こちらで大きいプールを2つ用意しました。ビニール袋を配って、みんなで（落ち葉を）集めようといって、子どもたちも本当に楽しそうに、もうどんどん袋に入れて、どんどん持ってきて、あっという間に、この2つのプールがいっぱいになりました。そして集まったところで、じゃあ、皆さんどうぞと言ったら、最初は結構ためらっていて、なかなか落ち葉に触れる機会がないというお子さんもいらっしゃるというところだったんですけれども、こども文化センターの館長とかが盛り上げてくださったところ、子どもたちも楽しそうに一気に入ってきて、気がついたらもうスペースがないぐらい、本当にお風呂みたいな感じで「うわって」みんな入ってくれて、自然に触れ合っているのがすごくいいなと感じました。

そして、3番目にフィールドビンゴですが、まさに先ほど伊藤さんからご説明がありましたが、伊藤さん監修の下、この9項目を用意しました。今回は落ち葉でしたので、真ん中に形の違う落ち葉を3枚拾うという項目を主にして、例えば落ち葉の匂いを嗅いでみるとか。まさに嗅ぐ、五感で感じるというところです。あるいは、大きな木の下で空を見上げるとか、実はこども文化センターは、公園の中腹から登ることができるんですけれども、そこを見つけるとか、どんぐりを3個拾うとか、ピンク色の花を見つけるとか、あるいは葉っぱのついていない木を見つくる、黒い実を見つくる、落ち葉を手でクシャクシャにしてその音をきくとか、「五感」についてそれぞれ項目を用意しまして、縦がそろったら、横がそろったらこちらに来てね、そうしたら景品をあげるよということでイベントをやってみたら、皆さん、全部そろえて持ってきてくれて。あっという間にそろっている子もいれば、分からないときはどこにあるの？と聞きに来る子もいて、いろいろありましたけれども、非常に楽しそうに、公園全体を使って体験することができたなと思っております。

そして、ここからがメインの堆肥作りのイベントになりますが、お手元に豆本を配布してありますが、いきなり子どもたちに堆肥の話をして興味湧かないというところで、落ち葉が微生物に分解されるというのを分かるように、絵本を大島さんに作っていただきました。このイラストも、全部大島さんに手書きで描いていただきまして、A4で印刷したのを、ちょっとうまくやると豆本になるということで、それをみんなに配って、大島さんの知合いで手塚梓さんという方に、事前に音声を収録していただいて、その収録した音声を当日スピーカーで流すと、本当にプロの語り手のような口調で、皆さん非常に聞き入っていました。それで何となく、みんなが落ち葉は堆肥になると分かった後に、先ほどためた落ち葉を、みんなでわっせわっせと持ってきて囲いに入れていくと。一気に入れるわけではなくて、3、4センチ程度入れたら、米ぬかと水を入れて子どもたちが踏むと。これをいっぱいになるまで④と⑤を繰り返すことで、取りあえずは堆肥の下準備ができるということ。子どもたちもすごく楽しそうにどんどん踏んで、粉まみれになりながら、最後はやって、何とか完成して、この2つ（のプール）いっぱいあったんですけど、踏み潰すことで非常に圧縮されて、この囲いの中にちょうど一杯に入りました。

そして、イベント実施後になりますが、こういった白い囲いがあると、どうしてもごみが捨てられてしまうことがあるんですけれども、SDGsという文言を入れると、子どもたちが学校で学んでいると

ということが伝わって、ごみとか捨てないで分かってくれるよということで、大島さんにこれ（看板）を作っていただきまして、看板を設置しました。

当日の様子を動画にまとめましたので、こちらをご覧くださいだと思います。

（動画鑑賞）

小西担当係長：動画は、以上になります。

イベント実施後の課題とか、感想を簡単にまとめさせていただきました。スライド29になります。

イベントに親子連れで参加いただいておりますので、まず、大人の方からの感想ですけれども、「いつもは汚れるから落ち葉で思い切り遊ばせることはなかったが、今日は存分に遊ばせられてよかった」というご意見や、「初めはおっかなびっくりだった子どもが、落ち葉の申し子のようにワイルドに戯れていました」、「3歳なので全て分からなくても、落ち葉を踏んで楽しめました」、「栄養分になるというのを学べた」、「いいイベントだと思います」、「宮前区内、公園にコンポストを設置したらいい」。

また、お子さんからも、「プールがお風呂みたいで楽しかった」、「落ち葉が大切だと思いました」など、前向きなご意見をいただくことができました。

こういった形で学びを得られたというところもありますが、一方、堆肥作りの落ち葉は定期的に攪拌して発酵させる必要があって、これも半年から1年ぐらいかかるというところで、じゃあ、その管理を誰が行うのか、あるいは完成した堆肥を誰に利用してもらうかなどについて、多くの方に関わっていただき継続的に実施できる手法を考えていく必要があると考えております。以上でございます。

司会：ありがとうございます。

冒頭でお伝えしましたように、本日、同時開催されておりました宮前平こども文化センターの花植えイベントが先ほど終了しまして、鈴木館長と、イベントに参加していただいた小学生のお二人にお越しいただいておりますので、この場でご紹介させていただきます。

宮前平こども文化センター館長の鈴木さんです。

富士見台小学校3年生の林さんです。

同じく富士見台小学校3年生の中込さんです。

途中からの参加となりますが、よろしくお願いいたします。

それでは、ここからは発表いただいた落ち葉の活用事例や、お試しで実施したイベントなどの内容を踏まえまして、印象に残ったことや、話を聞いてみての感想などについて、市長と皆様で意見交換をしていただきたいと思います。ここからの進行は、市長にお願いしたいと思います。それでは福田市長よろしく願いいたします。

<意見交換①>

市長：ありがとうございます。意見交換は2部制になっています。これからの約30分は、現状の課題だとか、今回11月のイベントに参加していただいた方、あるいは発表をそれぞれ聞いていただいて、どう思うのかとかというのをまずはお伺いし、第2部では、じゃあ、それらの課題を踏まえてどうやったら持続可能な形で活用できるかということについて話をしていきたいと思っています。

まず、落ち葉がこれだけ出た大変なんだというのは、私自身も見ていますし、実は市長への手紙でも結構多いんですね。落ち葉をどうにかしてくれとか、もう木を切っちゃってくれという話は、結構多いんです。最近では、街路樹の樹種を変えろといった形でやっている部分もあるんですけど、でも、突然切るというような極端な例じゃなくて、どういうふうにしていったらいいかなど。

先ほど林さんが言われたように、大切な森なんだけど、どうやって維持していったらいいのかなというような、そういう課題もある。いい緑だよ、いい森だよ、いい街路樹だよということと、課題のところをどうやってうまく両立させていくかということがポイントかなと思っています。

特に驚いたのが、大島さんの資料の中で、年間約2,000袋、ごみとして捨てられていると。また、伊藤さんの話で、森で遊んだ子どもたちは落ち葉をごみとしては見ていないよというのとは裏腹に、やっぱり大量にごみとして捨てられているという現状があるので、改めて、こんなに多いんですかということにびっくりしました。皆さん、いかがでしたか、聞いておられて。

寺澤さんも日々実感されていると思うんですけども、少しコメントをいただけますか。今の公園の現状ですとか、落ち葉とか、維持管理だとか、とても大変だと思うんですけど、コメントいただければと思います。

寺澤さん：落ち葉に関しては、皆さんと同じように、集めては焼却に回していましたが、最近は大島さんの啓蒙で、さくら公園も、しいの木公園も腐葉土を作る場所を作っていて、（落ち葉を）重ねています。3分の1は焼却に回しますが、3分の2は腐葉土の場所に運んで土をかけて米ぬかをかけて作っていますが、なかなかよいミミズが出てきてくれなくて。水もかけ、太陽も当たって、毎日眺めています、そんな感じです。

葉っぱや落ち葉を、迷惑とは思いませんけれども、マンションの管理人さんは落ち葉を掃く、集める、きれいにする、除くというのが仕事なので、毎日のように焼却のほうへ持っていくのが現状なんですよ。それを100%落ち葉のコーナーに運んでもらえると嬉しいんですけど。

マンションの管理人さんが、ケヤキの葉っぱを全部集めなくてはいけない仕事がとてもつらいとおっしゃっています。

市長：今2つの公園を管理していただいていると思うんですけども、人手という意味では、いかがですか。

寺澤さん：（人手が）足りないのはもちろんですけども、現在、うまいことに風がすつとよそへ持っていてくれて、何とかなっています。

市長：ありがとうございます。

林さんのところは、ずっと第4公園の森を大切にされていて、管理もしていただいていますね。少ないときは5、6人というお話がありましたけれども、公園は、ものすごい数の方たちが利用されていますよね。そんな中で、本当にご苦労していただいておりますけれども、その辺りをもう少し深く教えていただいてもいいですか。

林靖さん：そうですね、多分、区外、この地域外の利用者のほうが多いんじゃないかなと思っています。当日も、5、6人で掃除しながら、2、30人の車で乗りつけた子ども連れのファミリーが遊んでいるような状況なので、たまたま別のボーイスカウトとかがちょっと活動しているときは手伝ってくれたりというような、飛び入り参加的なのもあって、そういった遊びに来た人たちを巻き込んでやっていったらどうかという話は出てはいるんですけど、なかなか強要できるものでもないです。

あとは、今回の落ち葉イベントを見て、イベントの開始30分前ぐらいは関係者のみで、大人だけで自作自演かと心配していたんですけど、実際にやってみるとすごく盛り上がったので、継続的にやれたらいいと思う。汚れてもいい服装で。昔はそういうのは意識せずに私も汚れていましたけど、今の子というのは、汚れちゃ駄目よという感じで遊びに来ていることが多いと思うので。汚れてもいい、今日は

もうとことんやっていいよということで、自然を感じることで見えてくることもたくさんあるんじゃないかなというふうに思いましたね。

なので、小学校とかの何の教科になるんですかね。そういうところで、ぜひ大切な自分の地域の自然がいっぱいな公園を、いかに守っていくかというような啓発活動もしていただければ、いいんじゃないかなと思いました。

市長：ありがとうございます。

先ほど、鈴木さんと林さんと中込さんが加わっていただきましたが、小学生のお二人は11月のイベントには参加しましたか？どうだった？ちょっと感想聞かせてもらっていい？じゃあ、中込さんから。

中込さん：いっぱい微生物とかが暮らせるように、工夫したりとか、落ち葉プールとか、何かいろんなことを学べてよかったなと思いました。

市長：楽しかったですか。

中込さん：楽しかったです。

市長：今度あったら、また来ますか。

中込：行きたいです。

市長：ありがとうございます。言わせているふうになっちゃうと良くないですけど、全然そんなことなかったですね。ありがとうございます。

林さんの感想を聞かせてもらっていいですか。

林里華さん：私も落ち葉はあまり使えないとか、普通の自然とかのことだと思っていたんですけど、肥料とか、そういう役に立つものとかにできたのが、学べてよかったなと思いました。

市長：林さんは、これまで落ち葉で遊んだりとか、森の中で遊んだりという経験はありましたか。

林里華さん：公園内で遊ぶという経験はあったんですけど、肥料を作るとかはなかったなので、良かったです。

市長：ありがとうございます。

鈴木さん、子どもさんたちが参加しているのを見ていかがでしたか。

鈴木さん：今の発言もそうなんですけど、子どもたち、大人だなと、すごいなと。今、僕が言わせているわけじゃないんですよ。

こども文化センターというのは、遊びを通して子どもの健全育成をするというところで、まず遊んでもらうという体験をする。今の子どもたちは、その体験の部分が非常に少なくなっている感じがしました。参加させていただいた落ち葉プール、どうやって遊ぶのとか、お母さんに入っているのみたいな感じの子どもがいる中で入ってもらって、（二人は）今3年生なんですけど、すごく学びにつながって、びっくりするぐらいよかったなと感じるような内容でした。

市長：二人から楽しいとかとそういう感想が出てくると思ったら、すごく学びの部分が出てきてびっくりしました。

伊藤さんから先ほど、落ち葉を山積みになると、みんな飛び込みたくなるというお話がありましたけれども、人間の原始的な状態に戻るというか、あの気持ちはすごく分かります。何かああいう機会をもっと提供してあげたいなという感じがしますよね。伊藤さん、その辺りをもう少し深く掘ってもらっていいですか。

伊藤さん：そうですね。子どもが飛び込むんですけど、実は大人も本当は飛び込みたくて、子どもが楽しくやっているのを見て、ちょっとうずうずしているお父さん、お母さん、何でしょうかね、あれは。落ち葉の中はすごく温かくて、プール、水の中に入るよりも温かさとか、かさかさという感じだとか、落ち葉に埋もれて真上を見る、何かすごくリラックス効果というか、人間のどこかDNAに組み込まれているのかなと思いますね。

市長：そうですね。

伊藤さん：あともう1つ、西有馬小学校はすごく木が多くて、私は13年前から、小学校で土の授業をやらせてもらっていて、学校で出た落ち葉を集めて堆肥化するのをやっているんですね。大体5年生がやってくれるんですけど、そうすると、やっぱり同じで、落ち葉を集めるとみんなもう入りたくてしょうがないんですよ。踏む状態とかが楽しくてしょうがないというので、何でもない落ち葉があんなに魅力的なものに、みんなに見えているんだなと思いますね。

市長：ありがとうございます。

辻さん、ここまで聞かれていて、何かコメントがあったらお願いできますか。

辻さん：いや、もうすぐにやりたい。まち倶楽部と花の台町内会と一緒に、「おちば公園」というところで、公園清掃に人が集まらないので、公園清掃の後にマルシェをやったら、人がもっと来るんじゃないかということで、これを3年やったんですけれども、確かに年々子どもが来る。公園清掃に参加してくれる子どもが増えているんですね。

林さんもすごく協力してくださってやっているんですけれども、こんなに落ち葉が出るんだと。あくまでもごみとしてやっぱり何十袋にもなるので。でも今年の12月は落ち葉プールをやりたいです。

ぜひ、その子どもたちに、落ち葉はごみじゃなくてこういうふうにもできるよということを教えてあげたいなと、さっきからちょっとうずうずしていて。「おちば公園」で、山崎さんが既に落ち葉を集めて堆肥を作ろうとされているので、協力してと、すごく可能性を感じました。

市長：そうですね。私も冒頭に言いましたが、今回の車座集会のテーマは「落ち葉」と言われたときに、最初本当にぴんと来なくて、だけど、もうこの瞬間で相当面白いものになりそうだなという感覚がありますね。

実は、昨日橘処理センターという、新しい廃棄物の焼却場ができたんですね。すごく立派なものができて、ごみを燃やした熱を電力に変えて、市内で循環させるという話があったんですけど、これからも、ごみを減らしていくことはとても大事で、そういった意味では、今まで燃やしてしまっていた落ち葉が、いかにして資源になるかという、燃やしてしまえば、ただのごみになっちゃうんですけど、燃やさずに活用すれば、資源にもなるという、そういうサーキュラーな感じというのが、落ち葉でもでき

るということに、すごくワクワク感がありますね。

高原さん、各区の中でも、非常に自然が豊かで宮前区はいいところですけども、同時に落ち葉がごみになっていて清掃も大変だし、うまく活かされていない現状みたいなことについて、どういうふうにお感じになられているか、ちょっと聞かせていただけますか。

高原さん：私は本当に素人なものですから、大島さんのお仕事を一緒にやらせてもらったりして、関心がどんどんそっちに行っているんですけど、本当は、新芽、葉っぱですね、私はそれに一番興味があつたんですよ。生きているほうの葉っぱのことに、ものすごく関心を持ってやってきたんですよ。それがだんだん最後は落ち葉になりますね。

落ち葉の話だけでも、確かに最初はたくさんあって大変だったんだけど、1個1個見てみたら、本当に愛おしく、迷惑を通り越して、あれを何とかしたいなという気持ちに、最近すごくなくなってきているんですよ。大島さんと一緒にやらせてもらったりして、徐々に変わってきているんですけど、本当は僕はここで今言っているか分からないですけど、生きている葉っぱに対する意見を述べたいなと思っていたんですよ。

ですから、それも後で機会があれば、今でもいいですかね。

市長：どうぞ。

高原さん：実は樹木を好きになったのは、会社の同期のある男が、街路樹があるところで、これはクヌギだよとか、ケヤキだよとか言ってくるわけですね。それで、よく知っているな、何で僕は知らなかったんだろうというのがきっかけで、樹木に興味を持つようになりました。それからまっちゃって、特に葉っぱの形が好きで、いろんな葉っぱを集めるようになりまして、今大体100種類ぐらいの樹木の葉っぱを拾ってきて楽しんでいるんですけど、当然木だから葉っぱがあれば花が咲きますよね。だから、こういう花が咲くかと、花が咲いたら、当然実がなりますよね。その実が、どういう実なんだろうというところまでどんどんいっちゃって、最後には、今自分で言っているんだけど、どんぐりきちがいということで、どんぐりにはまっちゃっているんですよ。それで、変な話ですけど、どんぐりの絵本も書いてあったんですよ。そういうことで、私の年齢じゃないですけど、だんだん落ち葉という世界に今はまってきた、その有効活用というか、それに対する子どもさんたちの反応と、そういうものにもものすごく今興味があって、微力ながらやらせてもらっていると、そういう状態になります。

市長：ありがとうございます。

すごくいいポイントを言われたなと思うのは、何でもやっぱり作るとか、新しいものというのにはみんな目が行くんですけど、最終的なこの循環のところの最後のほうは、意外と皆さん、私もそうですけど、あまり関心が向かないというのがあるので、そこが最後までちゃんと関心を持ってもらえるというのは、すてきだなと思いました。

庄田さんも、先週でしたかね。川崎市とまいばすけっと株式会社で協定を結んで、水沢公園について協力していただくと。既にいろんな活動をしていただいております。どんな活動をしているのか、ちょっとお話ししていただいてもいいですか。

庄田さん：私どもが活動させていただいているのが、水沢特別緑地保全地区でございまして、皆さん行かれたことがあるかもしれないんですけども、菅生緑地に隣接している竹林と、広葉樹だつたりとかの樹木地帯と、あとはやぶ、竹やぶみたいな感じになってしまっているような土地がありまして、去年、南

区長にも植樹に来ていただきまして、ヤマザクラとイロハモミジとクヌギ、コナラを植えて、その木々を育てたりする活動をしています。竹林はやっぱり人の手が入らないと、どんどん密集して増えてしまっているの、年に4回くらい、当社の従業員を30名から50名くらい集めて、ボランティア活動として、竹の間伐をしたりだとか、あと、下草刈りをしたりだとかをしております。

市長：この落ち葉の話聞いて、どう思われましたか。

庄田さん：そうですね、最初は、落ち葉の集会に参加させていただくとなったときに、何が話せるかなと結構不安になって。ただ、ちょうど1年前だったと思うんですけども、近隣住民の方に、まいばすけっともこの水沢緑地で活動させていただきますというようなご挨拶で1件1件、川崎市の職員の方と一緒に回らせていただいたんですけども、皆さん、どちらかというと、緑地がよくなるということよりは、今、隣接しているところに、ふれあいの森というところがありまして、そちらに栗の木がたくさん植えてあるんですけども、栗の木の葉っぱが大変だという話になってしまって。水沢緑地というよりは、葉っぱをどうにかしてくれませんかとか、木を切ってくれませんかみたいな話になって、先ほど市長がおっしゃられたように、せっかく木として自然を豊かにしているものなのに、違う観点になるとごみみたいな、邪魔なものになってしまうようなご意見があったので、近くで活動させていただくにあたって、課題解決と、よりよくすることがうまく組合せができないかなとは考えております。

市長：ありがとうございます。

本当にその組合せ方なんじゃないかなと思うんですよね。先ほど、伊藤さんでしたっけ、大島さんだったかな。柵を竹で作っていただいていたというので。

大島さん：竹を頂いて・・・。

市長：そういう話に、もうなっているんですか。

庄田さん：そうなんです。多分、この後にお話しする予定かなとは思いますが。

市長：じゃあ、後にはしておきますか。活用の方法ね。

庄田さん：また、後ほどお話しさせていただきます。

市長：ありがとうございます。

実は、落ち葉はものすごく地域課題だよなと思っていたところが、うまく活用すると、ものすごく活きたものになってくるということに気づかせていただいた。大島さんのお話だとか、伊藤さんの話もそうですけれども、どちらも、そうか、そういう活かし方があったのかというようなお話でしたよね。だから、うまいマッチングをしていく。人と人をつなぐ。あるいは物から物へというふうな形で、うまい循環をさせていくようにすれば、何となく課題であったものがチャンスになる。面白みとか、楽しさに変わってくる。かつ、環境にもいいかもしれないみたいな話になってくると、よりいい循環ができてくるような気がしますね。

深く、うなずいていただいている南区長に、これまでの話の感想をいただきましょうか。

南区長：先ほど、大島さんからちらっとお話が出ましたが、最初のきっかけ、農フォーラムで川崎市は落ち葉をごみとして集めて燃やしているんですよとおっしゃった農業者の方がおられて、そして、会場には、私は堆肥のことを一生懸命やっていますという方がいらして、これはこのまま放っておけないなという、すごくそういう気持ちがありまして、こういったことを仕掛けてみたら、やっぱりやりたい、すごくいいことだ、協力するよという方がたくさん出てこられて、地域デザイン会議につながったということでした。

また、大島さんとのきっかけも、町内会の会長さんとか、役員さん方の集まりで、実は今度堆肥のことやりたいんですけど、どっか農家さんとかで堆肥を使ってくださるところはありませんかねみたいなことをお話ししようとしたら、いやいや、南さん、こういうことをやっている人がいますよといって、大島さんのローズウォークの写真を見せていただいて、それで大島さんと町会長さんを通じて、つないでいただけたみたいなことがございました。

市長が先ほどおっしゃっていただいたように、課題であることが、実は違う方面から見ると資源であったり、活かすような宝だということがあったり、やらなきゃならないこととして関われば辛いことなんだけれども、楽しいこととして関われば、もっとできるというようなこともあると思うので、そういうのを上手に組み合わせる。それは多分、区役所ですとか、ソーシャルデザインセンターをつくりましたが、ああいうところがうまくコーディネートできたらいいなということが、今私の頭の中ではございます。

市長：ありがとうございます。

第1部のところで一巡、全員お1人ずつコメントをいただきたいので、ガーデニング倶楽部の河井さんと山崎さんにも、一言ずつ、活用の話はまた次の部でやらせていただくとして、ここまで、皆さんの活動ですとかご発言を聞いて、どんなような感想を持たれましたでしょうか。河井さんから、ご意見をお願いします。

河井さん：私たちは25年前、宮前ガーデニング倶楽部ということで、花と緑で町のコミュニティを広げようと始まったんですけども、当初は公園で堆肥を作っている、腐葉土を作っているところは全くなくて。私たちは公園ではなくて、公共用地、駅前ですとか区役所とか、本当にもうすごく硬い土で、とても植物が育たないような場所を花壇にしてきたんですね。

当初は、東京の駒沢公園で堆肥を作っているということで、乗用車で、もう後ろが見えないぐらいにごみ袋に腐葉土を積んで、それで花壇の土にしていたんですね。

私たちは葉っぱが宝物で、やっぱり腐葉土はすごく土を柔らかくして、育ちやすい、水はけのよい土ができますし、私たちも自分たちで腐葉土を作りたいということで、街路樹のケヤキがちょうどたくさんありますので、そのマンションの方にごみ袋を提供して、集めておいてくださいねと置いていって、たまつたよとマンションの方から声がかかると、それを車で運んで、腐葉土を作っているということです。

この間森カフェにも参加させていただいて、私たちは水道タンクをリサイクルでもらったので作っていたんですけど、それはかき混ぜられないんですね。下のほうはうまくできていても、上が乾いてばかりということで、今度ちゃんと学んで、それも作り替えてやっていきたいなと思っています。

市長：河井さん、私、知りませんでした。最初、駒沢公園から腐葉土を持ってきていたんですか。

河井さん：そうなんです。2回ぐらい行きましたかね。結構広くて、何か所もやっていて、湯気が出ていて、

水もいっぱい要るような感じ。25メートルプールぐらいの場所にトラックで集めてくるんですね。それで、混ぜているという感じでした。

市長：そうですか。ありがとうございます。

山崎さん、お願いできますか。

山崎さん：私はガーデニング倶楽部に入らせていただいてから、緑とか、お花とかにすごく興味を持つようになって、うちのすぐそばにおちば公園というのがありまして、辻さんと一緒にマルシェとかをやらせていただいたんですけども、マルシェもやるし、いつもきれいにしておきたいなと思って。花の台町内会の美化委員になりまして、おちば公園の掃除をしているんですけども、秋はすごい落ち葉で、公園清掃の後もすごく落ち葉が出るので、最初は自分のマンションのごみ捨て場まで運んでいたんですけど、もう重くて絶対にこれは無理と。公園の隅っこに落ち葉をためて、腐葉土にならないかなと思って、やっていたんですけど、大島さんにお聞きして、米ぬかとかを頂いて、それをまいて切り返し、近所の方にも落ち葉は飛んでいませんかみたいな感じで、ちょっとお聞きしたり。公園の階段とか掃除したりして、今作成中です。

落ち葉も、生物にとってはすごくいい寝床だったりします。強風が吹くと山の斜面のところに落ち葉がすごくいっぱい落ちてくるので、片づけたほうがいいかなとかと思ったんですけど、ちょっとかいてみたら冬眠していたカエルとかが出てきて、やっぱり落ち葉は生物のすみかでもあるので。道路に出ちゃったらごみだけど、公園のあるところであれば生物が循環していくのに役立つものでもあるし、ある程度そのすみ分けをして、循環できていたらいいなと思いました。

市長：ありがとうございます。（大島さんは）腐葉土マイスターでいらっしゃるんですね。皆さん、伝播していていますね。ちょっと今の状況、うれしい感じの感想をいただいてもいいですか。

大島さん：私も自分だけでやってもいけないと思います。いろんなガーデニング倶楽部さんに行って、いろいろ勉強させていただいて、つながりを持つようになりまして、こちらからも発信したり、また勉強させていただいたりして、おちば公園にもマルシェに少しでも伺わせていただいて、辻さんとも知合いになれたし、いろんな方と知り合うことができて、落ち葉の活動のおかげだと思っています。

さっき、山崎さんがおっしゃったように、生き物が落ち葉の下に、わらじ虫とか、いろんな虫たちがベッドのようにして寝ているんですね。だから、それをごみにしないで、虫たちの命がいっぱいあそこにありますので、ごみにしないようにしたいと思っています。

市長：ありがとうございます。

今年は、川崎市制100周年ということで、合わせて、全国都市緑化かわさきフェアというのを、今年の秋と来年の春、2期開催することになっています。緑化フェアというと、花と緑の祭典ということになっておりますけれども、最初の植樹ということだけじゃなくて、先ほどからお話に出ているように、最後まで循環していくということも、大人もそう、先ほど、林さん、中込さんが言ってくれたように、体験して、それを学ぶということもとっても大事なことでと思いますので、そういったレガシーも、この緑化フェアを機会につくっていければいいなと、すごくこの1日、数時間で、学びが多いなという感じがします。

そろそろ第1部は時間になりましたので、次は第2部ということで、一旦司会に戻します。

司会：皆様、ありがとうございました。

<意見交換②>

司会：続きまして、落ち葉のさらなる活用に向けた持続可能な取組についての意見交換に移りたいと思います。初めに、先ほどご説明いただいた大島さんに、11月のイベント実施後にお住まいのエリアで取り組まれている活動をご説明いただきます。

その後、まいばすけっと株式会社の庄田さんに、水沢特別緑地保全地区において、川崎市と共同で里山保全を実施していただいている取組を発表していただきます。

大島さん、発表をお願いいたします。

大島さん：よろしくお願いします。

町会で集めた落ち葉を堆肥化しているんですが、さて、それをどうやって活用したらいいかという、その循環を考えていたんですね。最初は、地域の方に配って使っていただくということを考えていたんです。そうしたら、たまたま今年の区役所で行われた賀詞交歓会に、主人が出席して、そのときに、郵便局の方から花壇の手入れを手伝ってくれませんかというお話をいただきまして、じゃあ、やりますと。これはいいチャンスだなと思いまして、郵便局の方と何回かお話をいたしました。

そうしたら、郵便局の方が、このようなものを作ってくださったんですね。ガーデニングのボランティアと緑地協会の方とか、いろんなものをひっくるめて、循環ができるんじゃないかということで、これはとてもいいことだと思いまして、町会の方にもお話をして、実は4月1日に幹部会がありまして、そのときに、皆さんにも今までやっていたプレゼンのこととかお話をすることになって。後回しになってしまったんですが、先日、15日に町会の皆さんが作った堆肥を持って行って、土作りをお手伝いしてくださいました。無事にその土作りはできて、今度は花植えをしたいなと思っています。

これが、そのときの写真です。もともと郵便局の方たちがお花をいくつか植えていらして、通る方皆さん、興味があるようで見ていらして、これをもっと増やしていけたらいいなと思って。郵便局というのはとてもいい立地にあるんですね。駅からも近い。そして、バス通りに面して、バス停の真ん前なんですね。ここで活動ができれば、とてもいい効果があるので、落ち葉の活用の宣伝にもなるのではないかと思います。皆さんに無理やりお願いしたというわけです。

最後になりましたけれども、まだまだこれからいろんな課題がありますけれども、1つ1つ皆さんと話し合って、クリアしていきたいなと思います。今日はありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

続きまして、まいばすけっと株式会社庄田さん、発表をお願いいたします。

庄田さん：よろしくお願いします。赤い文字

で、まいばすけっとと平仮名で書いてある小さいスーパーを運営しております。

私自身は、川崎市の多摩区、よみうりランドの近くに実家がありまして、今は仕事の関係で川崎区に住んでおります。川崎大師が近くにありまして、大師公園というところに時々散歩に行きます。川崎市には結構お世話になっているんですけれども、少し当社の活動や、活動に当たっての経緯をお話しできたらなと思っております。

当社は、東京と神奈川に、1,120店舗ほど展開をさせていただいているんですけれども、川崎市内には100店舗ほどございます。本日、参加されている方にも、もしかしたらまいばすけっとに行ったことあるよという方がいらっしゃるかもしれないんですけれども、創業以来、店舗をたくさん増やし

てきました。それというのが、地域のお買物に困っている方のご不便を解消しようと思ひまして、たくさんお店をつくってきたんですけれども、お店を運営するというのは、エネルギーを使うことでして、例えば、トラックで商品を運ぶにしても、炭素が出てしまいますし、お店を運営するにあたって、大きい冷蔵庫があったりだとか、冷凍庫があったりするんで、エネルギーをたくさん使います。なので、お店をつくるということは、環境に負荷を与えてしまっているということでもあると考えております。

地球環境に負荷をかけるだけではなくて、私たちが地域に貢献できることがないかなというところで、地域に出店をさせていただいている川崎市において、こういった自然の里山保全活動をさせていただいております。

具体的な活動ですね。次のページをお願いします。私どもは、2021年から活動させていただいております、2021年は2回だけだったんですけれども、去年は、年に4回活動をさせていただいております。

春は植樹を100本ほど。左下の作業前という草があふれているところ、つる科の植物が繁茂してしまっていて、人が入れない状態で、地域の方も心配されていた土地で、やっぱりそういう場所は、なかなか明るい雰囲気にはなりづらくて、暗い雰囲気になってしまって、不法投棄だったり、あと不審者が出てしまったりだとか、そういった土地になっていました。本日（会場に）いらっしゃると思うんですけれども、道路公園センターの方にご協力いただきながら、その土地を一掃して、整地をして、新たな木を植えて、里山を再生するというような活動をしています。

秋の回には、緑地内の竹林で取れた竹の葉っぱを、夢見ヶ崎動物公園のレッサーパンダに寄贈しているんです。レッサーパンダが私たちが刈った葉っぱを食べてくれたと、従業員も結構喜んでいて、地域施設の循環を感じているんですけれども。ただ、竹の幹の部分というのはなかなか活用できていない状況なので、先ほどコンポストを作るにあたって、周りに竹の組込みをして活用されているという話だったので、ぜひ水沢の緑地からも活用いただけたらなと思っています。ありがとうございます。

司会：発表ありがとうございました。

なお、今後宮前区においては、例年、道路公園センターで開催している公園緑地愛護会及び管理運営協議会の説明会の中で、本日議論したことを含め、こうした落ち葉活用の取組を共有させていただき、実施してみたいという団体がありましたら、ご相談いただければ、一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ここで2回目の意見交換の時間に移らせていただきます。進行は、福田市長にお願いしたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

市長：改めて、よろしくお願いいたします。

大島さんから、もう既に11月のイベント以降に、宮前郵便局とつながって活動が始まったというお話がありましたし、何と、まいばすけっとさんの刈った竹の葉っぱをレッサーパンダが食べていたことを、今、知りました。そうでしたか、ありがとうございます。えさまで作っていただいたんですね。その芯のところですね。葉っぱ以外のところが、まだ活用できるよということで。

庄田さん：持っていく場がないので、緑地の中にためている状態で、それを何かかごを作ったりだとか、ワークショップをしたりだとかということまではまだ至ってなくて。竹林整備は年に2、3回やっていたりするので、どんどん増えていつてしまっているという状況でもありますので、ぜひ活用いただきたいなと思っています。

市長：今、大島さんからバスケットだけに、という話ありましたが、まいばすけっとさんが作るいわゆる竹のバスケット。うまいですね、面白い。そういうつながりができるとすごく面白いですね。何か今聞いていて、わくわくっとしていますけど、河井さん、どうですか？

河井さん：欲しいです、欲しいです。

市長：欲しい方が既に現れました。どんどん竹が欲しい。どういうふう to 活用されるんですか。

河井さん：さっき申しましたように、私たちの（腐葉土の）作り方が下手だったので、大島さんのところに習って、竹のバスケットを作らせていただきたいと思います。

大島さん：半日でできます。

市長：そうですか。

河井さん：じゃあ、（大島さん）講習をよろしくお願いします。（庄田さん）竹のほうもよろしくお願いします。

市長：堆肥を作るその枠というか、バスケットの容器を作っていくと。今はプラになっているということですよね。なかなか高さがあってかき混ぜられないというお話がありましたよね。

河井さん：はい、そうなんです。

市長：なるほど。既に引取り手ができて、お互いにマッチングいたしましたけれども、辻さんも何か使いたいとかありますか。竹だけじゃなくてもいいですよ。落ち葉でも……。

辻さん：私はもう、さっきの郵便局の写真を見せていただいて、ああいう場所がまちにいっぱいあるんじゃないかな、早く探しに行きたいなという気持ちになって。きっと、こういうことを待っている場所がたくさんあるんじゃないかなと思いましたし、あれがまた竹でできたら、さらに宮前区のイメージもアップするかなとか、そういう感じがしました。

市長：ありがとうございます。

一方で、その活用の前に、先ほども出た人手をどうやって確保していくかという。林さんのところも一生懸命頑張っていただいて、本当に感謝していますが、もう少し多くの人たちを巻き込みたいですよ。ボーイスカウトも、時々手伝ってくれるというお話でしたけれども。

実はこの公園をテーマに、公園の維持管理をどうやっていくかというのは、結構、車座集会でやっているんです。そこで、いろんな形でマッチングしていくんですけども、利用者側からすると、実はあなたが公園を管理しておられるのかというのは、あまりご存じでないケースが残念ながら多い。車座に参加いただいて、「え、そうだったんですか」と。自分たちも少し何かやれることがあるということで、車座集会で、幾つかつながっている例というのはあります。

例えば、宮崎台ですと、宮崎第1公園も第4公園も野球チームとかがいっぱい使っていますよね、私もよく知っていますけど。こういう方たちに、特定の時期に一緒にやりませんか、かつそこに遊び感

覚でという要素があれば、作業ではなく、さっき鈴木さんもおっしゃっていたように、遊びの中から学ぶというような、そういう感覚でやっていくと、結構面白いものができるんじゃないかと思うんですが、その辺りは鈴木さんと伊藤さんにコメントをいただきたいと思います。どういうふうな巻き込み方があるか、ステークホルダーの増やし方という意味ですね。

鈴木さん：今回、関わりを持たせてもらったのは、こども文化センターに落ち葉が落ちてきている。それを集めている。それをどう活用するか。どう処分するかというところも含めて、道路公園センターにお話をさせていただいたところ、地域デザイン会議に参加させていただいて、この前の11月のイベントにも参加させていただいて、帰るときにぜひ見ていっていただきたいんですけど、本日、花を植えるイベントをやらせていただきました。正直、こども文化センターの職員だけでは、それができない。もちろん子どもたちだけでもできない。地域の方だけでもやっぱり人手の部分が足りなくなっているというところを、じゃあ、どうしていくかというところで、まさにこのつながりという部分が、すごく大切だなと思っています。あとは、私どもはやっぱり子どもたちを楽しんでもらう。子どもたちが楽しそうと思えるものという発想を持ってやっているんですけど、それに参加する大人も、実は楽しいという部分。なおかつ、子どもの頃、いろんな楽しみを自然の中でやってきたという経験を皆さんお持ちなので、この部分をつなげていくということが今後大切かなと。何かやらされているという感じじゃなくて、どちらかというと、自然の中にいるだけで僕は楽しいと思っていますので、そういった部分を全世代の、共通な部分として楽しみながら活動をするということを、積極的に皆さんにお伝えしていけたらなと思っています。

市長：ありがとうございます。

先ほどのスライドにもありましたが、五感で感じて、使ってというのはすごく大事だと思うんですね。見る、触る、嗅ぐだとか、食べてみるというふうなこと。僕はいろんなものを食べちゃうので、何か駄目な部分もあるんでしょうけど、でも何となく土みたいなものを少し食べてみると、ああ、こんな感じかというふうなのを実際は土は食べてもらいたくないんだけど、でも、そういうような感覚というのを、子どものうちから体験していくのはすごく大事な経験だと思うんですね。

既に20年以上にわたってやっていただいている、伊藤さん、いかがですか。

伊藤さん：そうですね。ちょうど20年前に始めたときは、結構やぶ状態の森を、自分たちでできることはやってみようよと言って手を挙げた6人がたまたま私も含めて子育て世代で、小学生、幼稚園くらいの子どもがいる人で始めたんですね。そうすると、子どもを置いて、森へ行くことはできないから、子どもと一緒に連れて作業をするようになったんですよ。子どもは大人のやっていることをよく見ていて、一緒にまねしようとしたり、それはちょっとの時間なんですけど、あとは勝手に遊んでいるんですが、そういう形で始まったので、もともとわりと子どもが参加してくれていたんですね。

だけど、20年経つと、子どもの環境が変わってきて、すごく忙しくなってきた、前は小学生も結構参加していたんですけど、今は、小学校へ入ると土日は予定がいっぱい入っていて、森に行っている時間はないみたいな子が増えてきて、幼稚園前の子たちもやっぱり共働きが増えてくると、貴重な土日になってくるので、人を集めるというのは、本当に大変だなって感じています。

人を集めるためにいろんなことをやりますが、とにかく知ってもらうということは本当に大事で、今だったらSNSだとか、ホームページだとか、あと、1回でも来てくれた人に、今回はこういうこと、こんな活動をしましたよということをお知らせするみたいな、そういう、1回来てくれた人をまた来させるための仕組みというのを、いろいろやってみたんです。でも、やっぱりすごく大変ですね。

今は高齢者の方が増えてきたので、高齢者の方も来てくれるんですけども、どうしても体力的に難しいことも出てくるので、その辺でできることとできないことを、みんなで一緒にうまく役割分担しながら、みんなが来てよかったな、もう1回来ようかなみたいな、そういうワクワク感を持たせるようなことが大切なんだけど、難しいですね。

市長：なるほど。ありがとうございます。

これまでも、この車座集会で、自治会・町内会もそう、あるいは活動団体としても大分高齢化したので、若い人たちに入ってきてほしいなという声はあるんです。学生さんたち、大学生も、高校生も、中学生の人たちも、結構車座に最近入っていただいて意見をいただくんですけど、みんな何か参加したいという思いがあるんですね。

一方で、ただの作業員、肉体労働をさせられるだけというのは違うよねと。だから、一緒に楽しむ、一緒に作るというような仕掛けづくりがおそらく大切なんだろうし、そういうことを、逆に今の若い人たちはすごく望んでいる部分があるので、うまいマッチングの仕方があるんじゃないかなと思うんですよ。辻さん、こういう仕掛けづくり、大変お得意だと思うんですけど、何かいいアイデアはありませんか。

辻さん：先ほども申し上げたんですけども、公園で、例えば落ち葉を集めるだけ、清掃だけというのと、さっき市長がおっしゃったように、もうただのお掃除人みたいになってしまう。でも、その後に、清掃とマルシェという、その後のお楽しみをちゃんと掛け合わせてやると、人が、子どもたちが集まってくるんですね。

子ども会の会長さんからも、お掃除だけに行きなさいといっても子どもは行かないけれども、マルシェがあるからと声をかけてくださって、そうすると、すごくたくさん子どもが来るんですね。

未就学児のお父さん、お母さんも公園に来られて、自分たちは何もしないで帰るという方がこれまで多かったんですけども、その後にそういうイベントがあると言うと、割と滞在時間も長くなるし、じゃあ、一緒に何かやろうかという気持ちも起こってくるようなので、何かその組合せ、やっぱり楽しいことと一緒に組み合わせるということを、もっとやっていけばいいのかなと思います。

市長：ありがとうございます。

林さんと中込さんに、自分たちだったら、こんな遊びしてみたい、遊びながら、さっきの落ち葉イベントもそうだけど、こんなことをしたら、森の中は楽しいかもしれないというものがあったら、教えてもらいたいんですけど、ちょっと1、2分考えておいてください。後でもう1回聞きますね。

(高原さん) どうぞ。

高原さん：落ち葉に絵の具で色を塗って、画用紙に貼るじゃないですか。それで、色で遊ばせるという。色の塗り方によって、自分なりのデザインができますよね。そういう形で、落ち葉の葉っぱの形なんかを目を向けてもらおうということで、本当はこの葉っぱは、春になったら青い形でこんな形をしているんだよということにつながっていけるというか、葉っぱを基にした遊びを、子どもさんたちの場に与えて、そこで落ち葉拾いという方向に、自然にも興味を持ってもらおうという。どっちかというアート的なほうに好きでいっちゃうものですから、そういうものだったら、進んでやりたいなと思っています。そんなアイデアがある。

市長：なるほど、ありがとうございます。

市長：ガーデニング倶楽部も大学生とかが結構来ていますよね。何かとあそこで活動していると、入っているものがハーブティーとか、何かすごく豊かだなと思って、ああいう仕掛けづくりがものすごくお上手なんですけど、若い人たちを引きつけている。もう20年ぐらいたちますか。25年ぐらい。

河井さん：2000年からずっとやっています。

市長：2000年からということですから、これまでずっと維持し続ける、いろんな人たちが入れ替わり立ち替わりがある、そういうノウハウがあると思うんですけど、ちょっとコメントいただいてもいいですか。学生さんたちが来ていることに、びっくりしたんですね。

河井さん：そうですね。大学生、大学院生、この間は、ウィーンまで留学した学生が戻ってきて、私たちもウィーンでのコミュニティガーデンづくりを学んできて、それを教わったりとかしていますけれども、どちらかというと、私たちはコミュニティをつくるというところに来られる方が多いですね。本当に全国、北海道から、京都からいろいろ来てくれています。すごく刺激をもらえますし、楽しんでいます。あとは活動だけではやっぱり続かないので、ちょっと植物とか、農作物は作っちゃいけないんですけども。例えばオクラの花がきれいで、その後に実がなったねとか、ブラックベリーがこういうふうに育つよとかと言った後に、ちょっとお茶を頂くとか。ハーブも、農作物ではなく香りとか、そういったことがありますので、じゃあ、お湯を沸かしたら入れて飲んでみようとか、そういったお楽しみですね。

市長：やっぱりお楽しみ要素はすごく大事ですね。

河井さん：そうですね。

市長：継続性には。

河井さん：そうですね。一緒に味わうと、やっぱりそこで会話が増えて、今日はこういうことをやって、じゃあ、今度はこういうことをしたいねとか、そういった話が出てくるので。

市長：先ほどの話でも、伊藤さんのビンゴもそうですし、お楽しみ要素というのはすごく（大事）。どうぞ、マイクいいですか。

大島さん：私たち、つい去年、知り合いに声をかけまして森カフェというのを試験的にやってみたんです。有馬ふるさと公園というところがあるんですが、東側の日陰の部分が、いつもすごく雑草だらけで鬱蒼としていたんですね。昔はここに水が湧いていたんだよというお話を伊藤さんから聞いていて、たまたま行ったときに、ちょっと見に行ったんですよ。それから数日後なんですが、業者が入って、とてもきれいになっていたんですね。じゃあ、これを維持管理して、このままの状態を保てたらいい場所になるんじゃないかと。ちょうど日陰なので、これから暑くなると涼みにも行かれるし、何か小さなイベントができればいいなと思いまして、作業をした後にコーヒーをドリップで淹れて、堆肥場を作りまして、そこにコーヒー粕も入れ、堆肥作りをしつつですね。この間の17日にも20名ほど集まってくださって、伊藤さんがすぐ近くなので、昔の有馬のお話をしてくださったり、木のお話をしてくださったりして、すごく楽しめました。

市長：楽しそうですね。

それでは、林さんと中込さんに聞いてみましょうか。どんなことがあったら楽しいですか。参加したいですか。

中込さん：参加したいことは、今回みたいに落ち葉プールとか、楽しい行事とか、あとはやったことのないSDGsの行事とかもやってみたいなと思っています。

市長：ありがとうございます。では、林さん。

林里華さん：中込さんと似ていて、私もさっきみたいに、落ち葉で肥料を作って、それをお花の栄養にするとか、こういうイベントが楽しかったから増やしてほしいなと思います。

市長：ありがとうございます。そういうリクエストがあるということですね。

今まで聞いていて、もう1人の林さん、いかがですか。

林靖さん：9月の集会のときにも、ちょっとマニアックな提案をさせていただいたんですけど、とにかくまず、今日は高原さん、宮前区の榎野万太郎がすごく触発を受けて、盛んに出た「循環」というところからすると、宮崎第4公園というのは、まだまだ虫が結構いて、10年以上前なんですけど、クワガタのオス、メスがたまたま捕まったので、つがいにしたら、子どもができて、5年くらいずっと、5世代ぐらい、クヌギの木を入れながら家で作ったり、カブトムシも1匹だけ第4公園由来で、ほかのオスメスをつがいにしたら、60匹ぐらい卵を産んで、それを自分でファンシーケースでかえしたりという経験があるんです。夏場中心なので、なかなか大変で、大量に捕えちゃうとちょっと自然環境に問題があるんですけど、そういったこの「循環」、こういう自然の中で虫たちも生息をしているんだよという。そういう子たちを飼ってみると、また命への触合いというか、意識する機会にもなるし、非常に子どもたちにとっては貴重な経験になるんじゃないかなと思います。公園清掃と絡めることは難しいかと思うんですけど、セミならもうむちゃむちゃ来ますからね。セミ捕りだったら、幾らでも私も子どもの頃はやりましたけど、ほとんど今の子はセミ捕りをしませんね。

ということで、「循環」の一環とすると、落ち葉とは直接関係ないですけど、虫との関わりというのもまたいろいろ学びもあるんじゃないかなと思います。

市長：ありがとうございます。そういった意味では、先ほど高原さんからアート系のお話もありましたけれども、昆虫とか、生物多様性を学ぶというか、命を学ぶという、そういう楽しみ方もあるし、それと、活動みたいなのをお楽しみと一緒にセットにして、人に来てもらう、知ってもらうきっかけにするというのはすごく大事かもしれませんね。

寺澤さん、いかがですか。森カフェみたいなのは、すごく楽しそうですね。

寺澤さん：森カフェは、我が有馬だからよく分かるんですけど、虫が1匹いるだけで、みんな子どもたちはキャーと言って逃げる。おぞましいとか、嫌いという人たちが多い中、その虫を増やすのは目からうろこなんですけど、（わたしも）小動物がとてもしんどい人だったので、少し成長しなくてはと思うんですけど。

米ぬかを混ぜたらネズミがいた。それだけでも背筋が寒くなるような、どうしたらいいのかしらとい

う、どこに解決の道があるかしら。でも、ミミズはウェルカムで、堆肥になるからいい子。

あとは落ち葉のときではないのですが、花植えのときには、公園で遊んでいる親子には必ず声をかけて、一緒に巻き込んで花植えをするということにしています。ポスターを貼って、親も子どもも一緒にするんですけど、子どもだけを置いていきますと言って、おうちに帰られる方もいらっしゃるんですが、親子で、ちびちゃんたちと遊んでいるお父さん、子どもに必ず声をかけて全部やってもらおうと思っていて、花のレイアウトも子どもたちにさせている。

そういう植物の教育で、植育というふうに言ったらいいですかね、有馬には20年以上の伝統がありまして、大昔の人たちがそういうふうにしていましたので、現在もしています。巻き込む方法。そして、私たち、年を取っているので、次の若い世代に託しますよと言って、若い人たちに、後は頼むねというふうに何回も声をかけ、勧誘して。有馬9丁目の公園もみんな大好きでよく遊んで、そういう人たちを捕まえては全部抱き込んでいます。

それから、保育園児がいっぱい来ているので、その人たちを抱き込むには、働いている人たちの家族には負担をかけられないからと思って、よく遊んでいてうれしい、たくさん遊んでくださいねと言って、声をかけて帰っているんです。清掃に困るというようなことは、今のところ、そんなにないです、風が吹き飛ばしてくれるので・・・というのが、現在の有馬9丁目です。

市長：ありがとうございます。なるべくだったら、公園の利用者の方たち、あるいはその地域の人たちが、利用するのと一緒に管理のところもやると。利活用をすると同時に、管理も一緒になってやるということが非常に望ましいと、そっちも循環ですよねというふうな形にしていくのがいいので、やはり先ほど学校の話も出ましたけれども、こども文化センターの利用者の皆さんも、それぞれの地域の公園を一緒に使っているんだから、一緒に楽しみながらこういうことをやろうという、そんな仕掛けができればいいと思います。

それから、地域にはいろんなプレーヤーがいるので、こういうことをやっているの、あんなこともやっているのということを知ると、先ほどの竹の利用の話じゃないですけども、こっちでは要らないけど、そっちでは要る。あるいは、こっちでは困っていないけど、こっちでは困っているというふうな話をうまくつなげると、いい取組が様々な生まれるのではないかなと、今日は感じております。

冒頭にお話があったように、今後こういった取組、落ち葉の活用から始まる人のつながりとか、社会の循環といった取組を、区内でいろいろ進めていくということ、ぜひ有馬の地域から、あるいは野川の地域から、少しずつ広げていくために、成功モデルをつくっていく必要があると思うんですよね。そういう意味で、今後どういうふうにしていくかということについて、区長からも少しコメントを、区としてだけでなくいいです、どんなふうな取組をこれから展開していこうかなと思っているのか、コメントをもらっていいですか。

区長：今、お話を伺っていた中で、公園で遊んでいる人に必ず声をかけるというふうに言っていたんですけど、少し前に、花を植えて100という文字を作るというのがあって、この後、誰が水をやるのみたいな話になったときに、あれだけ公園に遊びに来ておられる方たちがいるから、ここに100周年を記念した花壇あるから、もし土が乾いていたら、ちょっとでもいいからご自分が飲んでるペットボトルの水を分けてあげてくださいみたいなことを、花植えしている最中に、通りがかった親子連れとかに声をかけたりなんかしまして。毎日利用してくださっている方は、この花壇の存在はもうご存じだから、公園に来ているときの一瞬を、この花壇のために振り向けてくださるみたいなことを、きっとこの方たちはしてくださるというふうに思えたということがございました。例えば、さっき、（堆肥を）かき混ぜなきゃいけないという話もあったと思うんですけども、いつも遊びに来ている人たちに、こう

いうタイミングでかき混ぜてくれるとうれしいんだという看板とかを立てておくと、じゃあ、かき混ぜるか、みたいに、ひと手間を、みんながちょっとずつするみたいなことを促すことができればいいのかなと思いました。

市長：ありがとうございます。

実は、幸区の車座集会のとき、公園管理のところで今のような話があったんです。幸区は、土地が非常に狭いので、自分たちの園庭を持っていない保育園が結構あるんですね。だから、その公園にいつも遊びに行くという保育園が2つぐらいあったんです。その子たちに、花壇を作るからそこに水やりをやってくださいと言ったら、毎回水やりをやるようになったというように、仲間を増やしていくということはすごく大事だと思うんですね。

時間になりますのでまとめになりますけれども、市制100周年の1つの合い言葉みたいになっているのは、改めて「川崎を知って、関わって、好きになる」という、そういう1年にしましょうと言っているんです。

皆さんが大切にしている公園のことについて、改めていろんな人たちに知ってもらい、どんな人たちが公園で活動していて、どんな人たちが公園を維持・管理してくれているのか、そして、どんな人たちが利用しているのか、これらのことをまず知ってもらい。そして、次の段階で関わってもらいたいという、その仕掛けをいろんな楽しみも入れながら考えてみるのが大切だと思っています。関わってもらい、好きになってもらうという、そういうプロセスが、この落ち葉の活用についても言えるのではないかと、今日、皆さんの話を聞かせていただいて感じました。

改めて、宮前区内でいろんな活動をやっている方に深く感謝をしたいと思いますし、まいばすけっとさんのように、企業として新たに地域に関わっていただいている方、そして子どもさんたちをはじめ、こども文化センターの皆さんにも本当に感謝申し上げたいと思いますし、いい結びつきが、ここから始まればと思っています。

時間になりましたので、司会に戻したいと思います。

司会：ありがとうございます。出席者の皆様、多大なるご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。以上で、本日の「落ち葉でつながる宮前区」の意見交換は終了となります。

最後に、福田市長と南区長から全体を通しての感想、コメントをいただきたいと思います。

初めに、南区長からお願いいたします。

区長：皆様、本当に今日はありがとうございました。

落ち葉の関係の課題というのは、先ほども申し上げましたように、課題だと思うことが資源だったり、これはやらなきゃならない義務だと思うことが、実は楽しいことに変えられたりとか、そういう可能性がすごくあると思うんですね。

関わっていただく方の視点というか、何に関心を持ってそこに入ってこられるかも、いろんな可能性があって、そこを本当に上手に結びつけることができればもっと広がりますし、皆さんが楽しく、そして最終的には地球環境にもつながるような、すごくいいテーマと言いますか、落ち葉というこのキーワードでもって、人と人とのつながりもつくっていけるものだなと改めて感じました。

先ほど竹の話が出ましたが、落ち葉もそうですけど、竹林のことは宮前区の大きな課題になっていまして、それがこういった形でつながって、課題の解決につながるようなことが出てまいりました。実を言いますと、区役所で提案を募集したところ、やっぱり竹林の課題に着目してくださって、その竹で灯籠を作ったりとか、そういうことを普及していくことで、竹林の課題に向かっていこうよというよ

うな提案をくださった方もいらっしゃるということもあって、課題を楽しいこと、すばらしいことに変えていくアイデアとか、そこに向けていくエネルギーを、今まではただ一生懸命集めて燃やすために運んでみたいなのが、違う形で、しかも、できるだけ地産地消で、一番近いところで解決できる、そんなことに、私ども区役所が、情報発信ですとか、情報をお互いにつなぐいい働きができたらと思いましたし、新しくできたソーシャルデザインセンターなどでも、そういったことをつなげていけるような、そんな場になっていけたらいいなと、改めて感じました。

宮前区の皆様の「地域をよくしよう」という思いが強くて、そのためならご自分の時間を割いていただく、その思いをそこに向けていただける人がこれだけいらっしゃるということが何よりの財産でございまして、それを上手にこれからもつないでいけたらいいなと思いました。

本当に、今日はどうもありがとうございました。

司会：ありがとうございました。次に福田市長、よろしくお願いいたします。

市長：今日のご参加いただきありがとうございました。もう私は、大分しゃべり過ぎましたので、これ以上は重ねませんけれども、拙いコーディネートだったので、もっとしゃべりたい方が多かったと思いますけれども、このテーマはここで終わりではなく、これがスタートの段階だと思いますから、ぜひ今日つながったご縁も大切にいただきながら、それぞれが持っているネットワークがあると思いますから、そのことを出し合いながら、どこがつながれるのかと、自分の課題、それぞれの課題というのが、こういう形でつながったら答えが出てくるかもしれないという、そんな形になってもらえれば、車座集会も意味のあるものになったんじゃないかなと思っています。

今日は、貴重な日曜日のお時間をいただきまして、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

司会：福田市長、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第67回車座集会を終了いたします。皆様、本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。